

初めてプラセンタ治療を受けられる方へ

初めてプラセンタ治療を希望される方は、診察を受けられる前にご一読下さい

①プラセンタとは

フランス語で胎盤の事です。治療に使用する注射は人間の胎盤から作られたものです。サプリメント(健康食品)や化粧品はブタなど動物の胎盤から作られています。

②なぜプラセンタが効くのか

再生不良性貧血や骨髄性白血病などといった自分で細胞が作れない病気の治療に臍胎の提供を呼びかけるコマーシャルをご覧になった事があるかと思います。つまり胎盤は代謝を促進させ、細胞の分裂を活発化させます。当然その結果として、アンチエイジングの効果もあります。もちろん女性だけでなく男性も対象となります。

③プラセンタは何に効くのか

プラセンタは美容の薬であると思っておられる方が多いですが、厳密には正しくありません。プラセンタ治療を受けた方の多くが、その結果として肌の調子が良くなり、それが女性の口コミで広がって、いつの間にか美容の薬のイメージが出来てしまったのです。プラセンタの主な効能は「肝臓の機能の改善」「代謝障害いわゆる更年期障害や冷え性などの改善」「消炎作用つまり痛みをとる」「抗アレルギー作用」です。

肝機能を改善して、代謝を良くして、炎症を除いて、アレルギーを抑えると、肌の調子が良くなるのは当然のことです。逆に深酒・寝不足など不摂生をして肝臓に負担をかけると体調が悪く肌の調子も悪い、という経験をお持ちの方も多いためです。

④プラセンタ治療の種類は

定期的に注射をする、サプリメントを飲む、プラセンタ化粧品などを使う等があります。先に述べたように注射は人間の胎盤から作られた医薬品ですが、他は主にブタなどから作られたもので医薬品ではありません。当然ですが、効果は注射の方がはるかにあります。

⑤プラセンタ注射の正しい打ち方は

本来は「1回1アンプルを毎日または隔日に注射する」となっています。この方法が最も効率の良い打ち方です。ただ医療機関に毎日通院するのは現実的には無理な方がほとんどです。来院が可能な方は「週2回」を基準にして下さい。

一部に誤解されている方がおられますが、「沢山打つと効果が長く持続する」事はありません。1回に多く打つから回数が少なくて良いという事ではありません。

⑥筋肉注射と点滴のどちらが良いのか

本来プラセンタは本数に関係なく筋肉注射が基本です。点滴でも効果は変わりませんが、特に点滴の方が効果的な訳ではありません。

プラセンタのみを希望される方や時間的に余裕のない方は筋肉注射をお選び下さい。所要時間は筋肉注射で1分、点滴注射で15分です。

⑦まず体感できるのは

実際に治療を開始してまず初めに感じるのは「よく眠れる」事です。次に数回の注射後には「体が元気になった」と実感できます。更に続けて行くと「お酒に酔わなくなった」「肌の調子が良い」「冷え性が改善した」「腰痛が治った」「アレルギーが改善した」「白髪が減った」等の効果が認められます。

⑧いつまで続けるのか

特にいつまでというのはありません。体調に合わせて頻度を調節しながら続けて下さい。また途中で止めた場合もリバウンドはありません。ただ長期間空けますと、せっかく改善して来た症状が元に戻ってしまう事があります。その場合は再度スタートして下さい。

⑨プラセンタは生物製剤のため感染の危険などはないのか

先にも申した通りプラセンタの注射薬は厚生労働省が認める医薬品です。当然非常に厳しく管理され、提供される胎盤は厳しく選定されている上、その胎盤に対して更に加熱・分離等の処理をされてようやく製品となります。国内で年間 1000 万アンプル近くを 40 年以上に渡り使用されて来て問題となった事は 1 例もありません。ただしサプリメントや化粧品等は医薬品でない為この限りではありません。サプリメントや化粧品を勧めない理由の 1 つにこの管理の問題があります。プラセンタは副作用もリバウンドもほぼ無い最も安全性の高い薬剤です。

⑩プラセンタを点滴される場合

「元気を出すためのにんにく点滴」「痩身目的の代謝亢進の薬」「肝臓を守る肝庇護剤」などの薬剤を併せる場合は点滴となります。一方、「美肌目的のビタミン剤」は点滴でも注射でも可能です。効果は同じなので費用及び時間を考えると注射の方が良いと言えます。

⑪お断り

平成 19 年 8 月の日赤(日本赤十字)の通達により、プラセンタを打った方は献血が出来なくなりました。これは当時問題となった狂牛病対策の為ですが、プラセンタだけでなく、イギリス・フランスに 1 度でも渡航した事のある方、ヨーロッパに半年以上滞在した事のある方、ピアスの穴がある方も、同様に献血は出来なくなりました。但しこれらは全て自己申告に基づき、申告しないと献血は施行されます。本当に危険がある場合はもっと厳密な手段を講じるはずですが、また日本人で狂牛病にかかった人も誰一人いません。狂牛病問題が全て沈静化した以上この通達は近い内に撤回されると思います。またこれはあくまで一民間団体である日赤の通達に過ぎません。厚生労働省は医薬品として問題ないとして認可しております。不特定多数に提供する献血(日赤の事業)と違い、相手を特定して提供する輸血(厚労省管轄の医療行為)は全く問題ありません。プラセンタをしたため家族に輸血が出来なくなる等という事は一切ありません。

⑫薬剤について

薬剤はラエンネックとメルスモンを使用します。効果・効能は同じです。

⑬最後に

医療全てに言えますが、コツは「継続する」事で、プラセンタ注射でも同様です。わずか 2～3 回注射をして効果が無いと判断して止めてしまうのは大変勿体無い事です。また注射・点滴の内容は随時変更可能ですのでご相談下さい。

以上について十分ご理解・ご納得の上、根気よく続けて下さい。